

鈴なりだより



オハヨウカイ！鈴なりだより号外編"世界選手権の結果報告"となります。

・鈴なり初の世界進出

改めまして、この度は鈴なり世界選手権出場に際して、ご協賛金をいただき誠にありがとうございました。自分の中で今回感じたことを忘れないうちにご報告をさせていただきたく、帰りの飛行機内から失礼いたします。先に結果のご報告ですが、194人エントリーした中で、81人が完走、自分は65位集団のグルペットでのゴールとなり、74位でした。率直な感想としては、何もできずに完走することしかできなかった。です。当日は豪雨な上に10℃で15.5km、2,400m up という今まで経験したことのないタフな条件でのレースでした。ただ、条件は皆同じという中で、ガチンコ勝負。今段階では世界との差は大きく、4年後のロサンゼルスオリンピック出場を目標としている中で、現時点での自分の世界での立ち位置、世界のレベルを肌で感じられる貴重な経験をさせていただくことができました。自分に今、圧倒的に足りていないこと、それは位置取り、集団内での下り走行スキル、フィジカル面でも足りていない部分はあるものの、まずスキル面で圧倒的に世界とのギャップがあることを痛感してきました。今回、ゼッケン番号順でスタートとなったため、156番である私は後方からのスタート、スタート直後の道は5、6人並ぶのが精一杯の道幅でありました。日本選手2名は私よりも経験があり位置取りも上手なので、行けるところまで一緒に走ろうと決めていたのですが、スタートしてすぐ集団内で揉まれて柵に

ぶつかり、落車しかけてチェーンが外れるハプニングによりあっという間に最後尾になってしまいました。すぐに直してレースに復帰したものの、日本選手2名は遙か先頭は遙か彼方でした。本レースは5km地点までに前にいなければ、勝負をすどころか完走は難しいと言われていたのと、レース前半平坦コースのウスター周回をしてから後半アップダウンだらけのチューリッヒ周回に向かうコースレイアウトで、この周回を結ぶ坂道に入る時に、前にいなければ絶対に勝負はできない、そんなレースでした。私のような経験がない選手から世界のトップ選手が同レースで走っていることでわかる通り、レベル差がバラバラで後方で走れば走るほど落車リスクが上がらただけでなく、インターバルがかかるためより足を使わなければいけなくなります。そのため可能な限り前目でレース展開をすることが最低条件でした。ただ、レース経験が圧倒的に不足しているため無理をしたら自分が落車を起こしかねないこともあったので、できるタイミングがあったら挑戦はするが、できないことはやらない、これは決めていました。2日前に雨の中行われた女子ジュニアのレースで、落車によりスイスの選手が亡くなったしまった訃報もありロードレースはそんな危険なスポーツでもあります。なので、今の自分ができる中でできることを頑張るこれを一番に走ってきました。



カーブや道幅が狭くなる度にインターバルがかかりましたが、強度的には我慢できる強度、ただ無駄な走りなことには違いないので速く前にいきたいと思っ



ていました。でも、上げられるタイミングが全然なく、先に申し上げた周回を結ぶ坂道が刻一刻と迫ってきていました。そう思っていた

ところで集団内真ん中で落車が発生、そこでも足止めをくらいまた先頭とは差が開いてしまいました。その差は縮まることなく坂道に突入していきました。もう起こってしまっていることは仕方がないので、今の自分ができることは足でカバーすること、そんな脳筋プレーにはなってしまいましたが、登坂力には自信があるのでそこでなるべく番手を上げて前へ前へ走りました。集団はブチブチに切れていき、なんとか先頭集団後方に残りました。アップダウンだらけのチューリッヒ周回に入りましたが、インターバルが結構ツラく、前に少し上がっても下り坂で後方に下がってしまうそんな走りしかできませんでした。少し長めの下り坂が周の後半にあるのですがそこで集団は崩壊して、自分もそこで切れてしまいました。ただ、既にスタート直後に位置取りができなかった時点で、私の勝負は終わっていて位置取りができない限り、勝負参戦すらできないことを身をもって実感しました。ただ、今すぐにできるようになることではない位置取りや下りのスキルがないことを考えても仕方がないので、登坂で少しでも前に上がって走るようにしました。今回のコースは2,400m up すると申し上げましたが、獲得標高にすると富士山を2回分、前半のウスター周回はほぼ平坦なので後半のチューリッヒ周回に激坂が組み込まれているわけですが、この坂が大分強烈なわけです。激坂区間の距離は500mほどではありますが、斜度は20%弱、所々マンホールもあるため雨でタイヤが滑ったりする中で

ひたすら頑張るしかありません（笑）でも、ここが1番観戦者も多く脳天に響き渡る声援に包まれながら走りました。あの状況はこれまでになく、とても心に響くものがありました。ここで感じたのはやっぱり私、坂得意な方だ！ということです。周りの選手が結構必死に登っている中ですが自分は少し余裕を持って登っていたのでそこは自信になりました。もちろん全然楽ではないですが。笑あと3回ここ登るかあと脳内沸きかけながらも後先のことは考えずに今全力で走ってきました。気付けば小集団が出来上がっており、結果としてはこの集団のまま最後まで走ることにになりました。途中先頭交代できるところはして、下りは中切れしてしまうと悪いので後方に下がって自分が安全と思えるスピードで下る選択をとりました。ここでも痛感したのが、皆本当に速いということ。自分が雨の中の下りに絶大な苦手意識があるということもありますが、それにしても皆雨なんてお構いなしにどんどん加速していくわけです。雨で視界不良の中。正気か？そう思いながら下っていました。

1時間に1本のボトルと補給を摂ると決めていたのですが、寒さで手が悴んで硬いボトルが全然押せず、補給食も集団内であまり摂れず、70km弱の地点で少しエネルギー切れを起こし始めている気がしました。集団から少し離れたところで慌てて羊羹を詰め込み、体内に回るのを待ちました。



結局ボトルは1本のみ、補給は持っていたようかとジェルはほとんど使い切りました。今回小集団形成されてからはもう先



頭とは差があったので、追うためにガンガン回していこうという動きになることもなかったのですが、この補給でなんとかなりましたが、途中視界が白くなったり、ラスト1周の激坂区間では声援が凄すぎるけど、エネルギーの不足からなのかどんどん耳が遠くなっていった瞬間があったので、勝負をする際には補給についても改善が必要そうです。そのような感じで小集団内では特に何が起こるわけでもなく登りで千切れる人は消えていきながらも、集団内のゴールとなりました。

走行時間は4時間30分ほど、この中で応援してくださっている方々のことが何回も頭によぎりました。今回世界選手権出場が決まったのは9月の頭でそこから短い期間ではありましたがその中でできる準備をしてきました。ベルマーレチームで品川鐵工場様の保養所を拝借し1週間ほど合宿を設けていただき、最終走り込みとレースで最低限必要なカーペーサー等色々教えていただき、合宿最後の締めとして南魚沼クリテリウムとロードレースに出場して翌日スイス入りをしてレースに臨んだ形でした。コース試走をする中で、危険箇所や落車が起こりそうな場所等を念入りに確認し、可能な限りコースを試走しました。200人弱の世界規模でのレースは初めて、何もかもが初めての体験で今回を経て経験値は凄く高まったと思います。

本来であればもっと前で勝負をしたかったのですが、それが今回はできず悔しい気持ちではありますが、今回自分に必要なことが明確にわかったので、今後世界で勝負ができるようにできることを1つでも増やしてい

たいと思います。ロサンゼルスオリンピックを目指していく中で今の段階では勝負をする以前に、位置取りができないとスタートラインにすら立たないということがわかったので、女子レースではその経験値は積めないの男子レースに混ぜていただいたりしながら、世界で走るだけではなく世界で勝負をするための力をつけられるように今後頑張っていきたいと思っています。

今回は世界を感じてきたので今度は世界で勝負ができるように準備していきます。

今後も引き続きチーム共々、鈴なり妖怪 鈴こと木下友梨菜を応援していただけると嬉しいです。何卒宜しくお願い申し上げます。



・ご協賛スポンサー様

- ・株式会社品川鐵工場様 (Siriusgym)
- ・株式会社田野金属様
- ・サイクルネット株式会社様 (ガチンコサイクルTV)
- ・Hallo Activity様
- ・株式会社アスタス様

